

栗山町デジタル田園都市構想総合戦略

[令和6（2024）年度～令和9（2027）年度]

令和6（2024）年4月

栗山町

目次

I	はじめに	1
II	基本方針	3
	1 栗山町デジタル田園都市構想総合戦略の概要	3
	2 本町の地域ビジョン（目指すべき理想像）	3
	3 目標の設定と効果検証の仕組み	4
	4 施策の体系	6
III	具体的な施策	8
	基本目標 1 栗山の潜在力を活かし、産業と雇用の場をつくる	8
	基本目標 2 栗山の魅力を活かし、人を呼び込む・呼び戻す	11
	基本目標 3 安心して子育てができる環境をつくる	17
	基本目標 4 住み続けたいと思える生活環境を整える	20

I はじめに

国は、我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保するなど、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）」を制定するとともに、平成26年（2014年）12月、人口の将来展望に関する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、今後5ヵ年の施策である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を示しました。

本町においても、産業構造の変化等による若年層の都市圏への流出、少子高齢化による核家族化の進行、経済不況による景気低迷の影響など、人口減少と地域経済の衰退に歯止めがかかっておらず、今後もこのような状態が続けば、地域社会の存亡に関わる深刻な事態になることが懸念されています。

このため、本町は、これら人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組むため、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、国及び北海道の取組方針を勘案しつつ、町の実情に沿った「栗山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年（2015年）10月に策定したところです。

こうした中、国は、令和元年度（2019年度）末でこの取組期間が終了することから、今後も継続した取組を推進するため、令和元年（2019年）12月に第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、さらには、令和4年（2022年）12月、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させるため、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を閣議決定するとともに、地方自治体に対しても、国の総合戦略を勘案した地方版総合戦略の策定・改訂に努めるよう求めています。

これを受け、本町においてもこれまでと同様、国や北海道の取組方針を勘案し策定する必要があり、地域の社会課題解決や魅力向上に向けた地方創生の取組をデジタルの力を活用して継承・発展させていくために、栗山町まち・ひと・しごと創生総合戦略を改訂し、栗山町デジタル田園都市構想総合戦略（以下「総合戦略」という。）を策定しました。

【国のデジタル田園都市国家構想総合戦略における基本的な考え方】

- テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。

- デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化。
- これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。

〈施策の方向〉

- (1) デジタルの力を活用した地方の社会課題解決
 - ① 地方に仕事をつくる
 - ② 人の流れをつくる
 - ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ④ 魅力的な地域をつくる
- (2) デジタル実装の基礎条件整備
 - ① デジタル基盤の整備
 - ② デジタル人材の育成・確保
 - ③ 誰一人取り残されないための取組

II. 基本方針

1 栗山町デジタル田園都市構想総合戦略の概要

① 本町の地域ビジョン（目指すべき理想像）

ふるさととは栗山です。～みんなが元気なまち～

② 計画期間

令和 6（2024）年度～令和 9（2027）年度

③ 総合計画等との関係

総合戦略は栗山町第 7 次総合計画を上位とし、総合計画に位置付けた各事業を、デジタル技術を活用し、人口減少・少子高齢化などの社会課題解決の観点から、基本目標や施策に関する基本的方向に沿って再構築したものです。また、栗山町地球温暖化対策実行計画や栗山町 DX 推進計画、その他各分野における個別計画等との連携を図るものとします。

④ 総合戦略の構成

総合戦略は、（1）基本目標、（2）施策に関する基本的方向、（3）具体的な施策、によって構成することとします。

2 本町の地域ビジョン（目指すべき理想像）

① 人口減少・少子高齢化などの社会課題

本町における人口は、平成 27（2015）年に策定した栗山町人口ビジョンの推移に近い状態で減少しています。

年齢 3 区分別人口の推移においても、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は減少傾向が続き、老年人口（65 歳以上）は増えていくことが予想されており、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向が続いていることから、令和 3（2021）年は 115 人の自然減となっています。子どもを産み育てやすい環境をつくり出す必要があります。また、社会増減数は、平成 12～16（2000～2004）年の年平均が 87 人減に対し、平成 29～令和 3（2017～2021）年の年平均が 68 人減と改善傾向にあります。人口移動において転出超過にあるのは主に 20～30 代前半であり、子どもを産み育てる世代の転出は人口減少と少子高齢化に拍車をかける可能性があります。一方、コロナ禍を契機とした地

方回帰の動きや新しい働き方の普及などもあり、令和元（2019）年以降、社会増の傾向が続いています。

死亡減については、健康づくり・介護予防・医療体制の充実等により死亡率を下げる取組を進めることに加え、働く場の確保や多様な働き方を推進する社会増の取組との連携が重要になります。また、社会増については、本町人口増加策のメインとなる命題であり、若者・子育て世代をターゲットとして、働き方や住む場所が変容しつつある社会的なトレンドと地方移住ニーズの高まりを的確に捉え、取組を積極的に展開することが重要です。

② 本町の地域ビジョン（目指すべき理想像）

本町が有する豊かな自然と、積み重ねられた歴史と先人の夢をつなぎ、次代に誇れるふるさと栗山を築いていくため、町民一人ひとりが主役となり、和衷協力の精神で地域に根差したまちづくりを進めます。また、「みんな」（子どもたち・ひと・地域・産業）がつながることで生まれる絆を大切に、共に育み、輝ける「元気」あふれる人生100年のまちを目指します。

この考えのもと、栗山町の個性や優位性を示す栗山町第7次総合計画の合言葉「ふるさと栗山です。～みんなが元気なまち～」を本総合戦略の目指すべき理想像にも掲げます。

3 目標の設定と効果検証の仕組み

① 基本目標と目標設定における考え方

総合戦略においては、本町の地域ビジョン（目指すべき理想像）の実現に向け、国及び北海道の総合戦略の趣旨を勘案しつつ、以下4つの基本目標を掲げ、これに関連した施策を総合戦略に位置付けました。

基本目標1 栗山の潜在力を活かし、産業と雇用の場をつくる

基本目標2 栗山の魅力を活かし、人を呼び込む・呼び戻す

基本目標3 安心して子育てができる環境をつくる

基本目標4 住み続けたいと思える生活環境を整える

② 効果検証の仕組み

総合戦略は、P（計画）、D（実行）、C（評価）、A（改善）の各過程において、横断的な庁内体制を構築し、高い実効性を確保することが必要となります。

このため、基本目標ごとに9年度に実現すべき成果に係る数値目標を設定するとともに、各施策における効果を客観的に検証できる指標（KPI：重要業績評価指数）を設定します。

4 施策の体系

地域ビジョン	基本目標	基本方針	具体的施策
ふるさととは栗山です。 くみんなが元気なまち	1. 栗山の潜在力を活かし、産業と雇用の場をつくる	(1) 農地を守り持続可能な農業を推進	①生産性の向上や災害に強い農業基盤の整備 ②円滑な農地継承の推進による持続可能な農業生産体制の構築
		(2) 魅力ある商工業等の振興と関係人口の創出	①企業誘致活動及び企業版ふるさと納税の推進 ②魅力ある商店街及び観光・交流における組織体制づくりの推進
		(3) 担い手育成及び雇用環境づくりの推進	①農林業の担い手育成の推進 ②労働者への支援策検討など労働環境の向上 ③ものづくりを通じた地域活動や地域産業の担い手育成の推進
	2. 栗山の魅力を活かし、人を呼び込む・呼び戻す	(1) 魅力ある商工業等の振興と関係人口の創出【再掲】	①企業誘致活動及び企業版ふるさと納税の推進 ②魅力ある商店街及び観光・交流における組織体制づくりの推進
		(2) 担い手育成及び雇用環境づくりの推進【再掲】	①農林業の担い手育成の推進 ②労働者への支援策検討など労働環境の向上 ③ものづくりを通じた地域活動や地域産業の担い手育成の推進
		(3) 若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進	①若者、子育て世代の移住を促進する環境づくりの推進 ②若者世代が求める雇用の場づくりの推進 ③都市圏への交通アクセスなど、公共交通の利便性の向上
		(4) 教育環境のブランド化の推進	①各種教育施設等が連携した教育プログラムの推進 ②地域資源を活かした「ふるさと教育」の推進 ③国際交流を通じて国際感覚を身に付けた人材の育成 ④魅力ある栗山高校づくりの推進
		(5) デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化	①デジタル技術の活用による住民サービスの向上 ②新たな情報発信体制による地域コミュニティの活性化など情報発信の充実 ③女性活躍の推進

3. 安心して子育てができる環境をつくる	(1) 若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進【再掲】	①若者、子育て世代の移住を促進する環境づくりの推進 ②若者世代が求める雇用の場づくりの推進 ③都市圏への交通アクセスなど、公共交通の利便性の向上
	(2) 地域ぐるみで安心して子育てができる環境づくりの推進	①子育てや発達支援、保育サービスなどの充実
	(3)教育環境のブランド化の推進【再掲】	①各種教育施設等が連携した教育プログラムの推進 ②地域資源を活かした「ふるさと教育」の推進 ③国際交流を通じて国際感覚を身に付けた人材の育成 ④魅力ある栗山高校づくりの推進
4. 住み続けたいと思える生活環境を整える	(1) 町民が心身ともに健やかに暮らせるまちづくりの推進	①町全体で健康づくりを支え守るための環境づくりの整備 ②地域に必要な医療受診環境の整備
	(2) 生活習慣の改善と介護予防の推進	①生活習慣病やがん予防に向けた健診受診率の向上 ②介護人材の育成や地域の支えあい活動の推進など介護予防の充実
	(3) デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化【再掲】	①デジタル技術の活用による住民サービスの向上 ②新たな情報発信体制による地域コミュニティの活性化など情報発信の充実 ③女性活躍の推進
	(4) 栗山の自然・歴史・文化の保全・再生	①豊かな自然・里山環境の保全・再生 ②郷土芸能の継承活動の推進など文化遺産の理解促進
	(5) 安定したごみ処理体制の構築と地球温暖化対策の推進	①広域共同処理によるごみ処理体制の構築 ②温室効果ガスの排出抑制対策など地球温暖化対策の推進
	(6) 安全・安心な都市基盤の整備	①安全・安心な道路環境の維持・確保 ②安全・安心な居住環境の整備 ③魅力的な街なみ・景観づくりの推進

Ⅲ. 具体的な施策

基本目標 1 栗山の潜在力を活かし、産業と雇用の場をつくる

地域の特性を活かした産業振興策を推進し、地域産業の活性化や新たな雇用の創出など、経済の好循環を確立します。

【数値目標】

指標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
一人当たり課税対象所得	2,779 千円	2,862 千円

【基本的方向と具体的な施策】

- 基幹産業である農業の持続的発展と地域の活性化を図るため、新たな農業担い手の発掘と育成を促進し、また、自立した農業経営を実現するための支援を行います。
- 恵まれた地理的条件など本町の優位性を活かした企業誘致、さらに、進出企業等への支援などにより、地域経済の活性化と雇用の創出を図ります。
- 若年者の人材育成と就業機会の拡大や、高齢者や障がい者の多様な分野での活躍の機会づくりなど、地域活力を維持するための環境整備を推進します。

(1) 農地を守り持続可能な農業を推進

①生産性の向上や災害に強い農業基盤の整備

- ・国営事業などによる施設の維持管理を実現します。
- ・道営事業による計画的な基盤整備と施設の維持管理を実施します。
- ・畑地帯の計画的な基盤整備を推進します。

②円滑な農地継承の推進による持続可能な農業生産体制の構築

- ・担い手への円滑な農地継承を推進します。
- ・持続可能な農業生産体制を構築します。

(2) 魅力ある商工業等の振興と関係人口の創出

①企業誘致活動及び企業版ふるさと納税の推進

- ・積極的な企業誘致活動を実施します。
- ・工業団地の造成を実施します。
- ・ふるさと納税制度の効果的な運用を図ります。

- ②魅力ある商店街及び観光・交流における組織体制づくりの推進
 - ・賑わいにあふれ魅力ある商店街づくりを推進します。
 - ・地域資源を磨き上げ観光・交流による地域経済活性化を推進します。

(3) 担い手育成及び雇用環境づくりの推進

- ①農林業の担い手育成の推進
 - ・地域の中心的な役割を果たす人材を育成します。
 - ・多彩な人材の確保・定着を推進します。
 - ・森林空間の新たな活用を推進（ゼロカーボン意識の醸成）します。
- ②労働者への支援策検討など労働環境の向上
 - ・雇用の確保と労働環境の向上を図ります。
- ③ものづくりを通じた地域活動や地域産業の担い手育成の推進
 - ・ファブラボ栗山を運営し、ものづくりを通じた「まちの未来を開拓する担い手」づくりを推進します。

《重要業績評価指標（KPI）》

		数値目標	基準値（R3）	目標値（R9）
(1)農地を守り 持続可能な農業 を推進	①生産性の向上 や災害に強い農 業基盤の整備	農業用水路等長寿命化・防 災減災事業	0m	250m
		道営事業完了地区	0地区	1地区
	②円滑な農地継 承の推進による 持続可能な農業 生産体制の構築	農地利用集積計画特例事 業実施件数	5件	10件
		持続可能な農業生産体制 の取組面積	7,859 a	14,000 a
(2)魅力ある商 工業等の振興と 関係人口の創出	①企業誘致活動 及び企業版ふる さと納税の推進	企業等の立地件数	3件	2件
		工業団地の販売区画数	0区画	1区画
		企業版ふるさと応援寄附 金額	1,100万円	2,000万円

	②魅力ある商店街及び観光・交流における組織体制づくりの推進	商店街での新規開業	5件	4件
		栗山駅南交流拠点施設来館者数（年間）	—	36,300人
(3)担い手育成及び雇用環境づくりの推進	①農林業の担い手育成の推進	農業未来塾及び女性塾事業参加者数	19人	20人
		新規就農研修者数	2人	2人
		木材生産以外の林業関係雇用者数	0人	8人
	②労働者への支援策検討など労働環境の向上	就職前職業ガイダンス参加企業数	0社	16社
	③ものづくりを通じた地域活動や地域産業の担い手育成の推進	ファブラボ栗山利用者登録人数（延べ）	60人	212人

基本目標2 栗山の魅力を活かし、人を呼び込む・呼び戻す

本町の大きな魅力である豊かな農村・自然環境などの地域資源を活かし、交流・関係人口の創出・拡大を図るとともに、若者や子育て世代を中心とした定住人口の増加を目指します。

【数値目標】

指標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
観光入込客数	165.5 千人	407.2 千人

【基本的方向と具体的な施策】

- 移住・定住に関する総合的な情報の提供、子育て世代移住者等に対する支援の充実など、外部からの移住者・定住者の増加を図ります。
- 豊かな自然環境をはじめ本町ならではの地域資源の魅力をさらに高め、賑わいと活力ある観光・交流産業の振興と交流・関係人口の拡大を図ります。

(1) 魅力ある商工業等の振興と関係人口の創出 【再掲】

(2) 担い手育成及び雇用環境づくりの推進 【再掲】

(3) 若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進

①若者、子育て世代の移住を促進する環境づくりの推進

- ・ 栗山町への移住・定住を促進します。
- ・ 「くりにイトするまち栗山町」の地域ブランドイメージを活かし、関係人口となる「ひと」を呼び込みます。
- ・ 若者・子育て世代が定住しやすい環境を整備します。

②若者世代が求める雇用の場づくりの推進

- ・ 積極的な企業誘致活動を実施します。
- ・ 雇用の確保と労働環境の向上を図ります。

③都市圏への交通アクセスなど、公共交通の利便性の向上

- ・ 地域公共交通の維持・確保と利便性の向上を図ります。
- ・ 町営バスの運行により、交通弱者の移動手段を確保します。

(4) 教育環境のブランド化の推進

①各種教育施設等が連携した教育プログラムの推進

- ・幼保小中一貫教育連携プログラムを推進します。
- ・12年間を見通したふるさとキャリア教育の充実を図ります。
- ・福祉・介護分野における中核的人材養成に向けた高専一貫教育プログラム開発・実証事業に取り組みます。
- ・栗山高校「魅力化ビジョン（案）」を推進します。

②地域資源を活かした「ふるさと教育」の推進

- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進します。
- ・12年間を見通したふるさとキャリア教育の充実を図ります。【再掲】
- ・栗山らしい副読本を作成し、ふるさと栗山についての学習を推進します。
- ・食育事業等を通じて子ども達に食に対する正しい知識や理解を深めます。
- ・自然・社会体験など、青少年の体験活動の機会を提供します。
- ・地域と学校が連携・協働した教育活動を推進します。
- ・国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。
- ・ハサンベツ里山づくりの町民活動を支援します。
- ・人と自然との共生を推進します。
- ・「ふるさと自然体験教育」の推進と、その拠点となる「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」の利活用を図ります。
- ・ふるさと栗山の文化財保護・活用や郷土芸能の継承活動を推進します。

③国際交流を通じて国際感覚を身に付けた人材の育成

- ・学校経営基盤の確立を図り、超高齢社会を支える優れた介護福祉士を養成します。
- ・少年ジェット派遣事業を実施します。

④魅力ある栗山高校づくりの推進

- ・栗山高校の生徒確保と希望進路を実現する支援策の充実を図ります。
- ・栗山高校「魅力化ビジョン（案）」を推進します。

(5) デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化

①デジタル技術の活用による住民サービスの向上

- ・学校教育におけるICTの利活用を推進します。
- ・マイナ保険証やオンライン診療導入支援制度を創設するなどデジタル化を推進します。
- ・情報システム・機器の活用により、行政事務の効率化及び住民サービスの向上を図ります。
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。

・議会 I C T 化を推進し、情報公開と共有及び町民参加の機会を保障します。

②新たな情報発信体制による地域コミュニティの活性化など情報発信の充実

- ・広報くりやまの発行など、行政情報を広く発信します。
- ・くりやまの情報を収集・発信する体制をつくり、町民との情報共有や町外への情報発信の充実を図ります。

③女性活躍の推進

- ・町行政における女性活躍、男女共同参画を推進します。
- ・職場・地域等における女性活躍、男女共同参画を推進します。

《重要業績評価指標 (KPI) 》

		数値目標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
(1)魅力ある商工業等の振興と関係人口の創出 【再掲】	①企業誘致活動及び企業版ふるさと納税の推進	企業等の立地件数	3 件	2 件
		工業団地の販売区画数	0 区画	1 区画
		企業版ふるさと応援寄附金額	1,100 万円	2,000 万円
	②魅力ある商店街及び観光・交流における組織体制づくりの推進	商店街での新規開業	5 件	4 件
栗山駅南交流拠点施設来館者数 (年間)		—	36,300 人	
(2)担い手育成及び雇用環境づくりの推進 【再掲】	①農林業の担い手育成の推進	農業未来塾及び女性塾事業参加者数	19 人	20 人
		新規就農研修者数	2 人	2 人
		木材生産以外の林業関係雇用者数	0 人	8 人
	②労働者への支援策検討など労働環境の向上	就職前職業ガイダンス参加企業数	0 社	16 社

	③ものづくりを通じた地域活動や地域産業の担い手育成の推進	ファブラボ栗山利用者登録人数（延べ）	60人	212人	
(3)若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進	①若者、子育て世代の移住を促進する環境づくりの推進	社会減数の減少	-54人	-49人	
		クリエイター定着事業参加者数	24人	30人	
		若者・子育て世代の定住者数	15人	40人	
	②若者世代が求める雇用の場づくりの推進	企業等の立地件数【再掲】	3件	2件	
		就職前職業ガイダンス参加企業数【再掲】	0社	16社	
	③都市圏への交通アクセスなど、公共交通の利便性の向上	民間バス路線の維持・確保	6路線	6路線	
		JR室蘭線（岩見沢沼ノ端間）の便数の維持	7便	7便	
		町営バス利用者	25,000人	25,000人	
	(4)教育環境のブランド化の推進	①各種教育施設等が連携した教育プログラムの推進	合同研修会開催	0回	2回
			小中高ふるさとキャリア教育体験発表会外部協力数	4人	10人
栗山高校からの入学者数			1人	10人	
栗山高等学校新入学生徒			40人	55人	
②地域資源を活かした「ふるさと教育」の推進		土曜授業の開催（小中学校合算）	9回	8回	
		小中高ふるさとキャリア教育体験発表会外部協力数【再掲】	4人	10人	
		社会科副読本の配付	1回	1回	
		食育事業開催回数	3回	2回	
		くりやまキッズクラブ参加者延人数	118人	180人	

		地域と学校が連携した企画事業の参加者人数（延べ）	0人	200人
		オオムラサキ館来館者数	22,500人	25,000人
		ハサンベツ里山づくり参加者数	138人	250人
		人と自然との共生に関するシンポジウムの参加者数	0人	30人
		ふるさと自然体験教育への参加	3,895人	4,000人
		文化財指定件数（国・町指定）	23件	24件
		③国際交流を通じて国際感覚を身に付けた人材の育成	少年ジェット派遣事業申込者数	11人
④魅力ある栗山高校づくりの推進	地元進学率（単位：％）※栗山中学校からの進学率	31.34%	40.00%	
	栗山高等学校新入学生徒【再掲】	40人	55人	
(5)デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化	①デジタル技術の活用による住民サービスの向上	各小中学校のICT環境の利用	40時間	100時間
		マイナ保険証利用登録者数（国保データ）	89人	2,700人
		電子申請利用件数	594件	600件
		マイナンバーカードの交付率	34%	100%
		議会ユーチューブライブ配信視聴回数	114回	120回
	②新たな情報発信体制による地域コミュニティの活性化など情報発信の充実	町ホームページの閲覧者数	1,000,154人	1,000,000人
		コミュニティ放送局（仮）メンバーズクラブ会員数	0人	300人
	③女性活躍の推進	町職員（男性）の育児休業取得割合（1週間以上）	0%	85%

		啓発パンフレットの作成 配付	0回	1回
--	--	-------------------	----	----

基本目標3 安心して子育てができる環境をつくる

子育て世代の定住化のため、妊娠、出産、子育てなどの支援の仕組みを充実するとともに、質の高い教育の提供など、出産や子育てに希望を持てる地域の実現を目指します。

【数値目標】

指標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
年間出生数	60人	60人

【基本的方向と具体的な施策】

- 子育て支援メニューの充実や子育てに係る負担軽減など、多様なニーズに対応した子ども・子育て支援を推進します。
- 子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくりを推進します。
- 継続性、発展性のある教育を展開するとともに、子ども一人ひとりの才能を最大限に伸ばす環境の充実を図ります。

(1) 若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進【再掲】

(2) 地域ぐるみで安心して子育てができる環境づくりの推進

①子育てや発達支援、保育サービスなどの充実

- ・子ども医療費を助成するとともに助成拡大を実施します。
- ・子育て家庭の支援や、子育てしやすい環境の充実を図ります。
- ・保育園、こども園などと連携を図り、保育・教育体制の充実を図ります。
- ・心身に障がいや発達の遅れのある子どもを支援します。
- ・心身障がい児の療育サービス利用に係る費用負担の軽減を図ります。

(3) 教育環境のブランド化の推進【再掲】

《重要業績評価指標 (KPI)》

		数値目標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
(1) 若者、子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりの推進【再掲】	①若者、子育て世代の移住を促進する環境づくりの推進	社会減数の減少	-54人	-49人
		クリエイター定着事業参加者数	24人	30人
		若者・子育て世代の定住者数	15人	40人

	②若者世代が求める雇用の場づくりの推進	企業等の立地件数【再掲】	3件	2件
		就職前職業ガイダンス参加企業数【再掲】	0社	16社
	③都市圏への交通アクセスなど、公共交通の利便性の向上	民間バス路線の維持・確保	6路線	6路線
		JR室蘭線（岩見沢沼ノ端間）の便数の維持	7便	7便
		町営バス利用者	25,000人	25,000人
(2)地域ぐるみで安心して子育てができる環境づくりの推進	①子育てや発達支援、保育サービスなどの充実	町外通院拡大実施	0%	100%
		ファミリーサポートセンター会員数の増加率	100%	120%
		発達相談の延人数	30人	20人
		保育所利用割合(全体/定員)	102%	100%
(3)教育環境のブランド化の推進【再掲】	①各種教育施設等が連携した教育プログラムの推進	合同研修会開催	0回	2回
		小中高ふるさとキャリア教育体験発表会外部協力数	4人	10人
		栗山高校からの入学者数	1人	10人
		栗山高等学校新入学生徒	40人	55人
	②地域資源を活かした「ふるさと教育」の推進	土曜授業の開催(小中学校合算)	9回	8回
		小中高ふるさとキャリア教育体験発表会外部協力数【再掲】	4人	10人
		社会科副読本の配付	1回	1回
		食育事業開催回数	3回	2回
		くりやまキッズクラブ参加者延人数	118人	180人

		地域と学校が連携した企画事業の参加者人数（延べ）	0人	200人
		オオムラサキ館来館者数	22,500人	25,000人
		ハサンベツ里山づくり参加者数	138人	250人
		人と自然との共生に関するシンポジウムの参加者数	0人	30人
		ふるさと自然体験教育への参加	3,895人	4,000人
		文化財指定件数（国・町指定）	23件	24件
	③国際交流を通じて国際感覚を身に付けた人材の育成	少年ジェット派遣事業申込者数	11人	15人
	④魅力ある栗山高校づくりの推進	地元進学率（単位：％）※栗山中学校からの進学率	31.34%	40.00%
		栗山高等学校新入生徒【再掲】	40人	55人

基本目標4 住みたいと思える生活環境を整える

安全・安心して暮らすことのできるまちづくり、町民参加と協働のまちづくりの推進など、誰もが住みたいと思えるまちを実現します。

【数値目標】

指標	基準値 (R3)	目標値 (R9)
社会増減 (転入者－転出者)	△54人	△47人

【基本的方向と具体的な施策】

- あらゆる世代の町民が心身ともに健やかに、生きがいをもって暮らせるまちづくりを目指すとともに、町民と行政が連帯・協働し、ふるさと栗山で生きる幸せを実感できるまちづくりを推進します。
- 栗山の豊かな自然・歴史・文化を磨き上げ、次代に誇れるまちづくりを推進します。
- 安定したごみ処理体制の構築や、地球温暖化対策の推進、安全・安心な都市基盤の整備など、誰もが住みやすいまちづくりを推進します。

(1) 町民が心身ともに健やかに暮らせるまちづくりの推進

①町全体で健康づくりを支え守るための環境づくりの整備

- ・町民や地域・関係機関・企業と協働し、町全体で健康づくりを支え守るための環境づくりを整備します。

②地域に必要な医療受診環境の整備

- ・マイナ保険証やオンライン診療導入支援制度を創設するなどデジタル化を推進します。
- ・地域に必要な医療水準の維持に努めます。
- ・栗山赤十字病院改築事業を推進します。

(2) 生活習慣の改善と介護予防の推進

①生活習慣病やがん予防に向けた健（検）診受診率の向上

- ・生活習慣病や疾病の早期発見・早期治療に向けた健（検）診の実施と疾病の重症化予防に取り組みます。

②介護人材の育成や地域の支えあい活動の推進など介護予防の充実

- ・高齢者の介護予防事業を推進します。
- ・生活支援を中心とした地域包括ケアの充実を図ります。

- ・介護人材育成を図ります。
 - ・高齢者の社会参加と地域の支え合い活動の充実を図ります。
 - ・ケアラー支援の充実を図ります。
- (3) デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化【再掲】
- (4) 栗山の自然・歴史・文化の保全・再生
- ①豊かな自然・里山環境の保全・再生
 - ・国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。
 - ・ハサンベツ里山づくりの町民活動を支援します。
 - ・人と自然との共生を推進します。
 - ②郷土芸能の継承活動の推進など文化遺産の理解促進
 - ・ふるさと栗山の文化財保護・活用や郷土芸能の継承活動を推進します。
 - ・錦地区の街なみづくりを推進します。
- (5) 安定したごみ処理体制の構築と地球温暖化対策の推進
- ①広域共同処理によるごみ処理体制の構築
 - ・中間処理（リサイクル）を行い、再資源化を推進します。
 - ・ごみの正しい知識の普及啓発と協力体制づくりを進めます。
 - ・広域組合の共同処理（焼却・埋立）により、安定したごみ処理体制を構築します。
 - ・ごみ処理施設・設備など計画的な更新・修繕を行います。
 - ②温室効果ガスの排出抑制対策など地球温暖化対策の推進
 - ・再生可能エネルギーによる温室効果ガスの排出抑制など地球温暖化対策を推進します。
 - ・造林事業などにより適正な森林管理を推進します。
 - ・森林空間の新たな活用を推進（ゼロカーボン意識の醸成）します。
- (6) 安全・安心な都市基盤の整備
- ①安全・安心な道路環境の維持・確保
 - ・幹線町道の道路改良・舗装や交通安全対策を実施します。
 - ・老朽化した橋梁の点検・修繕を計画的に実施します。
 - ・国道及び道道の整備促進を実施します。
 - ・町道の道路環境の維持・向上を図ります。
 - ・冬期間における道路環境を維持・確保します。

②安全・安心な居住環境の整備

- ・住宅団地の造成を実施します。
- ・公営住宅の整備・改修を実施します。

③魅力的な街なみ・景観づくりの推進

- ・旧継立中学校施設の活用など南部地域の振興を図ります。
- ・将来を見据えた市街地整備を検討・推進します。
- ・錦地区の街なみづくりを推進します。
- ・景観資源の保全・活用を図ります。
- ・公園施設の計画的な修繕・更新を実施します。

《重要業績評価指標（KPI）》

		数値目標	基準値（R3）	目標値（R9）
（１）町民が心身ともに健やかに暮らせるまちづくりの推進	①町全体で健康づくりを支え守るための環境づくりの整備	健康マイレージ事業(努力型)の参加人数	70人	150人
	②地域に必要な医療受診環境の整備	マイナ保険証利用登録者数(国保データ)【再掲】	89人	2,700人
		町内受診可能な診療科数	12件	12件
		栗山赤十字病院の改築	0件	1件
（２）生活習慣の改善と介護予防の推進	①生活習慣病やがん予防に向けた健(検)診受診率の向上	5つのがん検診の受診率(合計平均)	11.0%	15.0%
	②介護人材の育成や地域の支えあい活動の推進など介護予防の充実	介護予防事業の参加実人数	426人	690人
		緊急通報システム設置事業	54件	140件
		介護職員初任者研修受講人数	0人	10人
		まちなかカフェ利用人数(月平均)	134人	500人
		ケアラーサポーター人数	11人	20人

(3) デジタル化の推進及び町民と行政の連帯・協働による地域活性化 【再掲】	①デジタル技術の活用による住民サービスの向上	各小中学校の I C T 環境の利用	40 時間	100 時間
		マイナ保険証利用登録者数 (国保データ)	89 人	2,700 人
		電子申請利用件数	594 件	600 件
		マイナンバーカードの交付率	34%	100%
		議会ユーチューブライブ配信視聴回数	114 回	120 回
	②新たな情報発信体制による地域コミュニティの活性化など情報発信の充実	町ホームページの閲覧者数	1,000,154 人	1,000,000 人
		コミュニティ放送局 (仮) メンバークラブ会員数	0 人	300 人
	③女性活躍の推進	町職員 (男性) の育児休業取得割合 (1 週間以上) 【再掲】	0%	85%
		啓発パンフレットの作成配付 【再掲】	0 回	1 回
	(4) 栗山の自然・歴史・文化の保全・再生	①豊かな自然・里山環境の保全・再生	オオムラサキ館来館者数 【再掲】	22,500 人
ハサンベツ里山づくり参加者数 【再掲】			138 人	250 人
人と自然との共生に関するシンポジウムの参加者数 【再掲】			0 人	30 人
②郷土芸能の継承活動の推進など文化遺産の理解促進		文化財指定件数 (国・町指定) 【再掲】	23 件	24 件
		歴史的建造物活用検討会議の開催数	1 回	1 回
(5) 安定したごみ処理体制の構築と地球温暖化対策の推進		①広域共同処理によるごみ処理体制の構築	資源物の資源化数量	1,586 t
	排出ごみ適正率 (プラスチック類)		92%	93%
	焼却処理量		0 kg	1,772 kg
	②温室効果ガスの排出抑制対策	事務事業編の温室効果ガスの削減量	23.8%	29.0%

	など地球温暖化対策の推進	民有林森林更新の推進(豊かな森づくり)	24 ha	28 ha
		木材生産以外の林業関係雇用者数	0 人	8 人
(6)安全・安心な都市基盤の整備	①安全・安心な道路環境の維持・確保	幹線町道の道路改良整備進捗率	0%	35%
		老朽化した橋梁の補修完了進捗率	50%	82%
		町道の道路環境の整備進捗率	0%	60%
		除雪用重機の更新率	0%	100%
	②安全・安心な居住環境の整備	住宅団地の販売区画数	0 区画	8 区画
		耐用年数経過戸数の割合	23%	0%
	③魅力的な街なみ・景観づくりの推進	南部地域振興検討会議の開催	0 回	6 回
		歴史的建造物活用検討会議の開催数【再掲】	1 回	1 回
		景観フォトコンテストの応募枚数	182 枚	120 枚